

9・16

橋下 打倒

労働組合つぶし許すな!

民営化=全員解雇
絶対反対!

非正規職撤廃!
処分撤回!



9・16橋下打倒集会

9月16日(日) 14:00~ 大阪中之島公園・女神像前

※集会後、御堂筋デモをやります

(大阪市役所南側 地下鉄・京阪「淀屋橋駅」徒歩5分)

主催：9・16集会実行委員会

《連絡先》 〒557-0001 大阪市西成区山王1-1-10-807
TEL&FAX 06-7503-7232 メール unite916go@yahoo.co.jp

自治体労働者・教育労働者は胸をはって闘おう！

時代は動き出した！

7月16日 代々木公園17万人の集会とデモ、さらに「再稼働反対！」「野田やめろ！」と20万人の労働者・民衆が首相官邸から国会議事堂前帯を埋め尽くしています。

「既存の体制はなくなってほしい。早く新しいまともな人たちによる政府をつくってほしい」（参加者）——社会の根本的な変革まで終わらない、戦後革命期以来の大規模な決起が始まっているのです。

新自由主義はすでに破綻している！

野田政権は、原発再稼働・被曝労働の強制、消費増税、オスプレイ配備、改憲・戦争攻撃に突っ込んできています。とりわけ、7月6日に出された「国家戦略会議」では「40歳定年制。有期雇用が基本」と、10割非正規化の攻撃を打ち出しました。

これに対して、労働者は「もう我慢できない！ 自分たちの未来は自分たちで決めろ！」と怒りを噴出させ、極限的な新自由主義攻撃に対する非和解の決起を始めています。

橋下による「公務員全員解雇」と闘おう！

橋下は、「大阪都構想」＝道州制攻撃をもって、地下鉄・市バス・水道・ゴミ収集・幼稚園・保育所・公立病院・公立学校など大阪府・大阪市を丸ごと民営化し、360万公務員全員解雇＝総非正規職化の先頭に立っています。

その攻撃の核心は、労組の解体・破壊です。労働者の誇りや団結をたたきつぶし職場支配権を労働者から奪い取るために、労組事務所の叩き出し、処分の乱発など、資本の金もうけのためにやりたい放題をやっています。

さらに橋下は、部落差別を切っ先に労働者を分断し、「歴史的に終止符をうつ」（橋下）と解放会館など解放運動の拠点を2年後に全廃し、地域全体の更地化と民間への売却を狙っています。

たたかえばどんな攻撃にも勝てる！

こんな攻撃の前に現場労働者が黙っているはずがありません。橋下との闘いのカギは、「全員解雇」攻撃を受けている公務員労働者が現場から反撃し、闘いの軸となることです。そして、ここでこそ闘う労働組合を甦らせることに

あります。

すでに大阪市職でも、大阪市教組でも、闘いを放棄している労組執行部を突き破る現場からの闘いが始まっています。斎場労働者は解雇攻撃と闘い「解雇撤回」を求める裁判闘争に立ち上がっています。

また八尾北・西郡では、労組の絶対反対の団結を軸に地域ぐるみの決起を作り出し、八尾北医療センター明け渡し（病院廃院＝全員解雇攻撃）裁判における全面勝利判決を勝ち取りました。

たたかえばどんな攻撃もはね返せるのです。

新自由主義と対決する労働運動を！

外注化＝非正規職化を核心とする新自由主義攻撃は、国鉄分割・民営化攻撃から本格化しました。そのJRで、10月1日の全面外注化攻撃に対して、「外注化反対！ 非正規職撤廃！」をかかげた青年労働者の未来をかけた決起が始まり、国鉄分割・民営化に決着をつける闘いに発展しています。

9月橋下打倒の闘いは、JRでの10・1外注化阻止と一体となって、労働運動の総反撃にうってでる闘いです。

労働者が地響きたてて決起する情勢が始まっています。この中でこそ、闘う労働組合の拠点をつくり、新自由主義と対決する労働運動をつくっていきましょう。



国鉄闘争全国集会に被災地を先頭に1800人の労働者が結集（6月10日）

赤田由行（大阪市職員労働組合）

橋下による「入れ墨調査」に対して、今なお自分を含む6名がこれを拒否し、橋下の解雇攻撃を断固迎撃しようとしています。組合執行部と職制は声を合わせて「提出することがあなたのためだ」というが、全く違う。入れ墨を口実とした「配転」とは、国鉄の「人材活用センター」攻撃と同じ解雇攻撃です。全員にかけられた攻撃です。

たった6名の存在が、橋下を大きく動揺させています。労働組合が絶対反対を貫けば勝てます。組合方針をめぐって真剣に議論し、ぶつかり合い、闘う団結を甦らせよう！

沼田祐子（大阪市教職員組合）

私は卒業式に「君が代」の起立・斉唱の職務命令に従わなかったことをもって、戒告処分されました。これに対して、人事委員会に不服申し立てを行っています。この処分攻撃は、私個人の問題にとどまらないと思います。橋下は「教育の民営化」＝「公立学校教員の非公務員化」のルールを実質的に走りだそうとしているからです。まずは、被処分者を今後の解雇者名簿の筆頭に載せようとしています。一人への処分・解雇は、全員解雇のはじまりです。労働組合は組合員へのいかなる不利益をも許さず、処分攻撃と闘うべきです。

藤木好枝（八尾北医療センター労働組合）

八尾北明け渡し判決での全面勝訴は、橋下、道州制の足下で勝ち取られた決定的勝利だった。労働組合のもつ力にみんなが自信と確信をもった。「国や行政と闘っても勝てない」という体制内の考えを打ち破って、「おかしいものはおかしい」と、絶対反対の非和解の団結を固めて闘えば必ず勝てるということを示した。さらに橋下は「部落解放運動拠点を2年後全廃」といって、差別をつかって労働組合・労働運動そのものを叩き潰し攻撃をかけてきているが、八尾北の勝利は、「このように闘えば勝てる」という展望を一気に切り開いた。